

本当に犯罪防止に  
役立っているの？

校区内をただ  
歩いてるだけ

メンバーの  
固定化・高齢化

若い人が  
入らない

モチベーション  
の低下



～ホットスポットパトロール～



そこでお薦めするのが「ホットスポットパトロール」です。

「ホットスポットパトロール」とは、  
犯罪が起きやすい『場所』に着目する「犯罪機会論」を応用した防犯手法で、  
「ホットスポット」。つまり「特に犯罪が起きやすい場所」を  
重点的に見回るパトロールのことです。

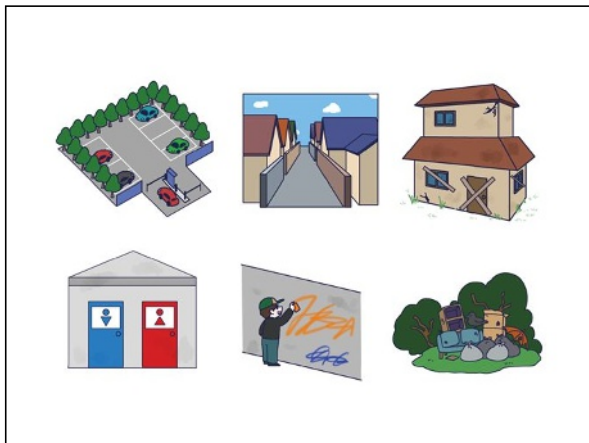
犯罪者にプレッシャーを与え、犯行をあきらめさせることから  
犯罪抑止に大きな効果があるパトロールとして  
世界的に注目されています。



**ホットスポット  
パトロール**



～ホットスポットパトロール～



「犯罪が起きやすい場所」とは、  
犯罪者が侵入しやすい場所、犯罪者が被害者に近づきやすい場所、  
そして、犯行が見つかりにくい、見えにくい場所だと言えます。

例えば、

「見通しの悪い駐車場」

「壁に挟まれた路地」

「管理されていない空き家周辺」

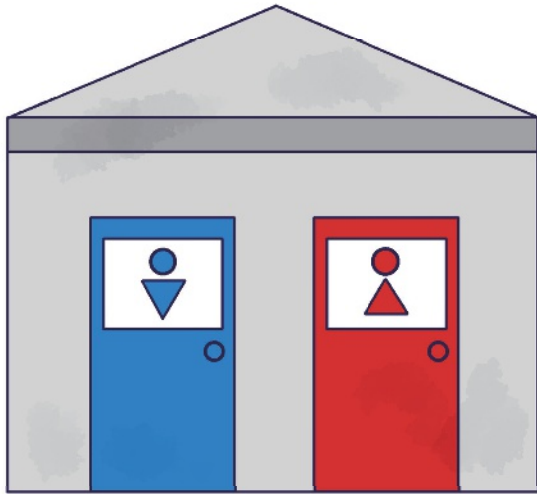
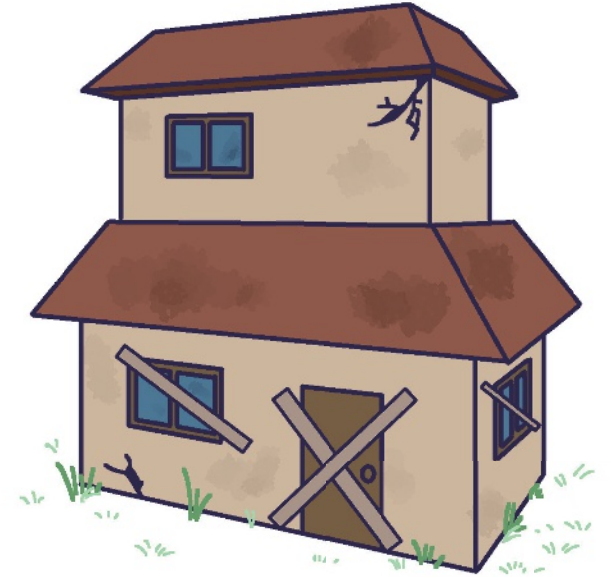
「公園の公衆トイレの裏」

「落書きやゴミが放置されている場所」などが挙げられます。

子どもたちには、

「危険な場所は、『入りやすくて、見えにくい』と教えましょう。





～ホットスポットパトロール～



「ホットスポットパトロール」は、地域をくまなく巡回するパトロールとは異なり、ホットスポット（犯罪が起こりやすい場所）に一定時間とどまるなど重点的なパトロールを実施する手法です。

各ホットスポットに5分～10分とどまりながらパトロールすることが推奨されています。

「この地域は住民が目を光らせている」  
「地域住民による管理が行き届いている」  
と、犯罪者にプレッシャーを与え、犯行をあきらめさせることが可能です。  
つまり、「入りにくくて、見えやすい」安全な環境を作ることができるのです。

校区内をただ歩くだけのパトロールよりは、  
犯罪防止に役立っていることを肌で感じ、モチベーションも向上します。

その結果、「わが子を守ろう」と、子育て世代の若い住民も参加しやすくなり、  
地域の担い手不足の解消にもつながるかもしれません。  
『ホットスポットパトロール』で、地域を活性化しましょう。

おしまい、おしまい。



# ホットスポットパトロールで 地域を活性化しよう！



～ホットスポットパトロール～



各地域では、生活安全パトロール隊などが結成され、防犯パトロールや、子どもの見守り、非行防止などの活動が行われています。

しかし、定期的に決まった日にちで集まり、校区内を「ただ歩くだけ」の地域があるのも実情です。

「本当に防犯対策に役立っているの?」と、モチベーションの低下にもつながってしまいます。

その結果、メンバーの高齢化・固定化が進み、パトロール活動の担い手不足が課題となっています。

